

社会・援護局

困難を抱えるすべての人に
寄り添い、暮らしを支える

Our Mission...

社会福祉法人制度の整備や福祉人材の確保など、社会福祉の基盤を整えるとともに、生活に困窮する方や困難な問題を抱える女性等への支援、自殺対策の推進など地域共生社会の実現に向け、社会福祉の増進に取り組んでいます。また、障害者が自ら選択した場所に居住し、地域で生活し、社会参加するために必要な障害福祉サービスの提供や、精神障害者の保健医療等を推進しています。加えて、全国戦没者追悼式の実施や戦没者の遺骨収集事業をはじめとした戦没者の慰霊、ご遺族等への援護等も行っています。

部局の所掌分野

地域共生社会の実現に向けて

様々な生活課題に対応するため、地域の住民や多様な主体が制度の縦割りや「支え手」「受け手」の関係を超えて参画し、一人ひとりの暮らしや生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向けて、地域での包括的な支援体制の整備を進めています。また、官民一体となって自殺対策に取り組むとともに、困難な問題を抱える女性への切れ目のない支援の推進に取り組んでいます。



▲ 赤い羽根共同募金の実施

生活に困窮する方への支援

生活保護制度により、健康で文化的な最低限度の生活を保障します。生活保護に至る前の段階で生活に困窮している方には、生活困窮者自立支援制度により、一人ひとりの状態にあわせた、仕事や家計、住まい、子どもの学習支援などの包括的な支援を行っています。

社会福祉の基盤整備

福祉サービスの提供を担う「社会福祉法人」の経営組織のガバナンス強化や相互の業務連携の推進、外国人を含めた福祉・介護人材の確保・養成を通じて、今後の社会を担う福祉サービスの提供体制の確保に取り組んでいます。

障害者施策の充実

障害のある方が自らの望む地域生活を営むことができる社会の実現を目指し、生活介護等の障害福祉サービスの充実や精神保健医療福祉体制の整備等を行っています。

戦没者遺族等に対する援護施策の推進

全国戦没者追悼式や戦没者の遺骨収集・慰霊巡拝等の実施、戦没者のご遺族や戦傷病者に対する年金等の支給、中国残留邦人等に対する支援等に取り組んでいます。

誰ひとり取り残さない地域社会の構築に向けて

地域社会の変容が進む中で、地域社会とのつながりが失われたことによる孤独・孤立や8050問題など、地域の住民やその家族が複雑かつ複合的な生活課題を抱えるケースが顕在化しています。このため、ひきこもり状態の方への支援の充実、成年後見制度の利用促進、身寄りのない高齢者等が抱える生活上の課題への対応など、市町村における包括的な支援体制の整備に取り組んでいます。

また、2025年4月から「生活困窮者自立支援法等の一部を改正する法律」が施行され、単身高齢者への住まい支援の強化など、生活困窮者自立支援制度や生活保護制度による重層的なセーフティネットの構築を進めています。



▲ 成年後見制度利用促進ポータルサイト開設に伴い誕生したマスコット「後犬(こうけん)ちゃん」

障害者が希望する地域生活を実現

障害の有無に関わらず、本人が希望する生き方ができるよう、障害者の希望や適性に応じた働き方の実現や、地域の相談支援体制の強化等、障害者支援施策の充実を図っています。

また、障害者の社会参加の機会を確保するため、障害者の文化・芸術活動の支援や、意思疎通支援、リハビリ支援等も行っています。

さらに、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を推進しているほか、アルコールや薬物等の依存症の対策も推進しています。

全国戦没者追悼式や遺骨収集等の実施

先の大戦では約310万人の方が亡くなりました。そのうち海外(沖縄及び硫黄島を含む)における戦没者

は約240万人に及びます。

今、私たちが享受している平和と繁栄が、尊い犠牲の上に築かれたものであることを忘れてはなりません。政府として、毎年8月15日には、戦没者を追悼し、平和を祈念するため、天皇皇后両陛下ご臨席の下、日本武道館にて全国戦没者追悼式を行っています。

そして、戦没者の遺骨収集は国の責務です。未だ帰還を果たされていない多くのご遺骨が一日も早くふるさとへ戻れるよう力を尽くし、ご遺族へ早期にご遺骨をお返しできるよう、鑑定体制の充実に取り組んでいます。また、戦没者遺族等への年金の支給等のご遺族への援護についても取り組んでいます。



▲ 全国戦没者追悼式(2024年8月)

Hot Topics

介護の仕事の魅力発信

厚生労働省では、介護職のイメージ向上を目指し、介護の仕事の魅力発信に取り組んでいます。現役介護職に仕事の楽しさや大切さを語ってもらい、雑誌『anan』や『POPEYE』に特集記事を掲載したり、楽天グループ(株)と連携して「知る。わかる。介護のしごと」ポータルサイトを構築し、広く発信するなど多くの方に介護の仕事を正しく理解し、関心を持ってもらえるように努めています。



▲ 『anan』『POPEYE』特集記事掲載号の表紙



▲ 「知る。わかる。介護のしごと」魅力発信ポータルサイト

戦後80年に向けて

戦後80年の節目を迎え、戦争を体験された方が少なくなる中で、改めて戦没者とその遺族の方に対する弔慰の意を示しつつ、広く国民が戦争の記憶を共有・継承し、現在そして未来に生かしていくための取組を進めています。

また、戦没者の遺骨収集についても、遺骨収集推進法に基づき、2029年度までの集中実施期間に、一柱でも多くのご遺骨を収集できるよう取り組んでいます。



▲ 遺骨収集の様子(モンゴルにて)